

日高南部地域における林業の活性化への取組について

～低コスト作業システムを活用した搬出間伐の普及に向けた取組～

日高南部森林管理署

【現状・課題等】

日高南部地域の地形条件や路網整備の遅れに起因して未搬出間伐が多い現状がある。

森林所有者から、搬出間伐の必要性とメリットについて理解を得ることが課題となっているため、搬出間伐が定着することを目的に取り組みを進めている。

【取組の成果】

搬出間伐等の普及に向けた現地検討会の取組により、日高振興局管内民有林の搬出間伐の面積比では、平成27年度の46%と比べ平成28年度は48%と微増している。

これは、搬出間伐について町職員等への理解が深まったものと考えられます。

一方、搬出間伐の内、列状間伐の状況は、平成27年度12%で実施にいたらない地区もあったことから、森林室と国有林による連携した検討会開催など取組を進めていくこととしている。

【平成29年度の取組結果・成果】

① 民有林の列状間伐等の実施状況を把握

＜管内の森林組合と間伐事業の実施内容等について意見交換＞

- ・搬出間伐は、3森林組合で実施し列状間伐は日高中部、日高東部の組合で実施されており、ひだか南森林組合では、森林所有者の要望等により定性間伐を実施している。

② 搬出間伐・列状間伐の普及

＜森林施業現地検討会の開催＞（平成29年10月25日）

【目的】

初回間伐における列状間伐のメリット等を示す等、列状間伐及び搬出間伐が促進されることを目的に、国有林と民有林の2箇所で現地検討会を開催。

【内容】

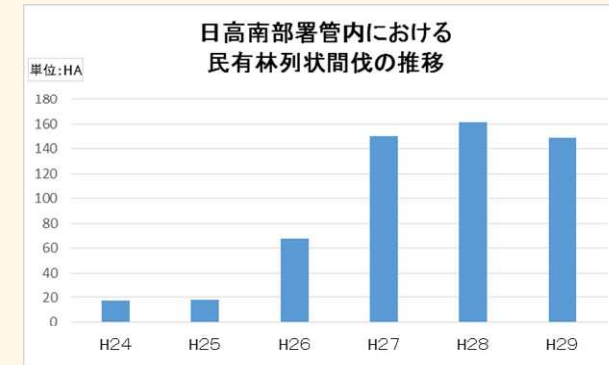
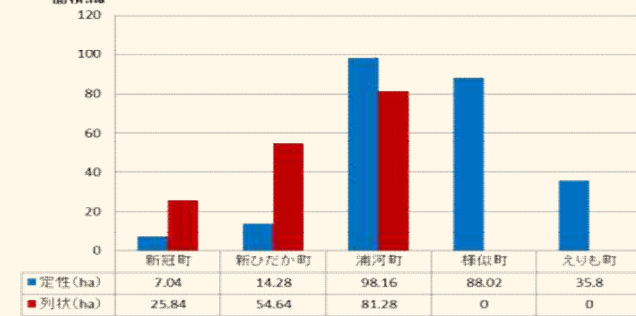
国有林の高性能林業機械を用いた低コスト作業システムと民有林の従来型作業システムの間伐データを収集し、分析結果等について意見交換

- ・民有林（1伐3残）と国有林の列状（带状）間伐方法による伐採幅約4m～7mの違いによる生産性について意見交換した。
- ・民有林の除間伐作業（3回）での残置木の損傷割合（約50%）の報告を行い林分の健全性を図るために早期の列状間伐の実行を提案した。
- ・定性間伐と列状間伐の選木の違いを比較した結果、平均直径27cmの林分においては22cm～32cmの間で均一に選木が行われており大きな相違はないことを紹介した。
- ・国有林の列状間伐（带状）と民有林の列状間伐（1伐3残）実施後の状況をドローンで撮影を行い、間伐効果等について説明した。

【成果】

- ・低コスト作業システムによる実例等が理解されるとともに、民有林の搬出間伐の内、列状間伐の実施面積がここ数年で大幅に増加、民有林関係者の意欲が高まっている。

平成28年度定性・列状間伐別面積



【今後の取り組みで目指すところ】

搬出間伐で、事業規模と傾斜等の作業条件の違いによる施業事例等の収集を図り生産性等を数値化し情報提供することにより、低コストな作業システムについての森林所有者の理解を促進し、搬出間伐の普及促進を目指す。

【今後の目標】

森林所有者や行政機関を交え列状間伐の優位性を示すことにより、低コスト施業と搬出間伐の拡大に取り組んで行く。